



## 沼津市長の職員に向けた年始メッセージについて

### 要 旨

年始挨拶に代えて、市長から職員に向けた年始メッセージを発信しましたのでお知らせします。

### 概 要

令和2年度まで12月28日及び1月4日に職員を会議室に参集し実施していた沼津市長の年末挨拶及び年始挨拶については、昨年度から廃止しております。

年始挨拶に代えて、市長から職員に向けた年始メッセージを庁内メールにて発信しましたので、報道機関へお送りします。

### お問い合わせ先

沼津市役所 企画部 人事課  
直通:055-934-4707



きらり沼津。次の100年へ

## 令和5年 市長年始挨拶

新年 あけましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げますと共に、市長としてご挨拶申し上げます。

コロナ禍も4年目となり、今日においても、未だその収束に至らず、市内においても感染が拡大し、予断を許さない状況が続いております。

その様な中、新型コロナウイルスワクチン接種室をはじめ、ご対応頂いている職員の皆様におかれましては、これまで大きなトラブルなく、安全かつ確実にスムーズな接種体制を継続して頂いておりますことに、改めて心より感謝申し上げます。

このような状況の中ではありますが、昨年は沼津港周辺をはじめ、大型商業施設等においては、人流の回復が見られたとともに、市内最大のイベントであります沼津夏まつり・狩野川花火大会が3年ぶりに開催されるなど、少しずつですが、日常を取り戻す取組みが進められてきた1年でもありました。

そして、本年はいよいよ市制施行100周年の記念すべき年を迎えます。

大正12年7月1日に沼津町と楊原村が合併・誕生して以来、周辺町村との合併を経て、平成17年の戸田村との合併により現在の市域となるまでには、先人達の大変なご苦勞と弛まぬご努力があったことを忘れてはならないと考え、この事を契機に、改めて先人達への感謝と敬意を表するものであります。

今年は、この100周年を記念するイベントを大々的に開催することは勿論、100周年以外にも、3月にオープン予定の新総合体育館におけるプロリーグによる大会や、5月に開催される東海地域の市長が一同に会する東海市長会議、10月にはみなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 沼津など、大規模イベントが複数控えております。

また、沼津のまちづくりの中核をなす沼津駅周辺総合整備事業においては、新貨物ターミナルの造成工事と調整池築造工事が間もなく完成し、秋口には新貨物ターミナルの本体工事の着手が予定されています。更に、中心市街地まちづくり戦略の実現に向けた社会実験の実施など、「沼津の動き出す・創り出す」を市民の皆様にも実感していただけるような事業が目白押しとなってまいります。

このようなイベントや事業が、今日、ここまでに至る事となったのは、先人達をはじめ、現在の担当課の皆様の不断の努力があつての事であり、更に、それ以外の業務を行っている皆様のお陰で、今日の沼津市政が成り立っているものと信じてやみません。

この場で申し上げますのは甚だ軽々しいかとは思いますが、改めまして日頃からの皆様のご尽力に対し、深く感謝の意をささげさせていただきます。

さて沼津市は、第5次総合計画で掲げた将来の都市像「人・まち・自然が調和し、躍動するまち」

の実現に向け、まちづくりの基本理念として定めた「動き出す、創り出す」、「誇りとつながり」、「心も体も元気で健康」をテーマに、誇り高い沼津の実現を目指すべく、今後数々の課題を乗り越えていかなければなりません。

これらの課題を乗り越えていく為には、これまで以上に職員が一丸となってスクラムを組み、連携・体制強化を図るとともに、職員1人ひとりの意識改革が必要であると感じております。

私が市政を預からせていただき、早5年目を迎えようとしていますが、職員の皆様に対する所感としましては、新しいことへの挑戦や民間を含めた対外的なやりとり、広報・宣伝活動において、いささか積極性に欠けると感じております。

業務を遂行する上で、様々なしがらみや、乗り越えなければならない要因等あるかとは思いますが、職員の皆様には、これまで以上に自由で斬新な発想を持ち、積極的な姿勢で業務に取り組んでいただきたいと思っております。

各部署の管理職の皆様におかれましては、時代の潮流というものをしっかりと見定めていただきながら、若い世代の意見を積極的に取り入れ、可能な限り前向きで柔軟な市政運営を心掛けていただくよう、改めてお願い申し上げます。

特に、新しい取り組みについて、“やらないための理由を探す努力ではなく、実現するための努力”に力を注げる組織作りの為に、お力添えを頂きたいと思っております。

さて、話は変わりますが、ここで、若手職員が中心となり、現在進めている取組みを1つご紹介させていただきます。

近年の技術職員のなり手不足は深刻であり、その事を解決すべく、若手技術職員達により結成されたプロジェクトチームによる、技術職員の採用人数確保に向けた取組みが昨年から行われており、令和6年度の技術職員採用に向け、若手職員が大学や専門学校等に自ら出向き、学生の就活状況調査の実施や、全国紙にも取り上げられた、目を引くようなポスター・名刺を、対外的にPRするに際し活用するなど、大変素晴らしい取組みを実施していただいております。

ただいま一例として紹介させていただきましたが、これまでの業務をそのまま何も変えずに前例踏襲のまま進めることほど楽なものはありません。逆に新しいことをただ闇雲に挑戦するだけでも無駄な労力と予算を割くだけで、効果的な成果は得られません。

現状を客観的にそして冷静に判断・分析し、「これっておかしいんじゃないのかな？」と疑問に思う気持ちをそのままにせず、改善に向けてどうやって進めていったら良いかを考え、職員同士で相談・協力し合い、取り組んでいくことが大切であると思っています。

私も皆様の先頭に立って、市民の皆様に「人・まち・自然が調和し、躍動するまち」を実感してもらえるよう、また「沼津市役所が良くなった。良い意味で変わってきた。」と思っていただけるよう、引き続き全力で市政に取り組んでまいります。

職員の皆様からの意見や相談についても随時受け付けております。いただいた意見や相談は、可能な限り前向きに受け止めてまいりたいと考えております。

今後、職場環境や業務のことで気になることがありましたら、メールでも何でも構いませんので相談してください。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

そして最後に、改めて、今年には市制施行100周年を迎えます。100年の歴史のある自治体の職員として、現在、我々があります。更に申せば、新総合体育館をはじめ、新中間処理施設等の大型事業や、30年来の懸案事項であった鉄道高架事業等を、「未来に向かって強力で歩を進める為の前提条件をそろえた、正にその瞬間にいて、そのことを活用・前進させる役目を担っている職員」であります。我々に課せられた責務は極めて大きなものであり、沼津の復権を待ち望む、市民をはじめ民間企業の皆様の期待感は、正に最大値であろうかと思えます。このことを負担と感ずるのか、それとも使命として捉えるのか、それ次第で、沼津の未来に大きく影響するものと考えます。マイナスの発想は、マイナスしか生みず、物事を後退させます。プラスの発想力をもってして、共にこの沼津をより良き方向に、創り上げて参りましょう。

結びにあたり、本市の更なる発展と、市民の皆様方、議会、関係団体、職員とご家族の皆様のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げます。

本年も1年、よろしくお願い致します。

令和5年1月4日

沼津市長 頼重 秀一